

株式会社テクノテック

これからの時代は価格競争ではなく
特許などの知財や付加価値が重要

洗濯機用防水パンと排水トラップに特化した専門メーカー。
製造部門を持たないファブレス企業であり、
ハウスメーカーやデベロッパーを中心に多くの販売実績を重ね、
快適なランドリーの世界を支えてきた。
地球環境の保護や資源の有効活用にも積極的に取り組み、
透水性コンクリートなど新規分野での活躍も期待されている。

主な権利

2014年：特許 第5475179号
2014年：商標登録 第5696678号
2015年：意匠登録 第1540855号
2016年：特許 第6007382号
2016年：意匠登録 第1565975号

会社概要

所在地：東京都文京区本郷 3-6-6 本郷 OGI ビル 3F
電話：03-5800-4477
URL：http://www.technotech.co.jp
業種：洗濯機用防水パン・排水トラップなどの
開発・製造・販売
設立：1988年(昭和63年) 資本金：5,000万円



代表取締役社長：木本 一也さん(中)
常務取締役：下末 信徳さん(左)
商品開発部 品質管理 課長：朝賀 隆さん(右)

機能性とデザイン性に
こだわって製品を進化させる

洗濯機の防水パンや排水トラップなど、毎日の暮らしに深く関わるランドリーの世界に欠かせない製品を開発している、株式会社テクノテック。新築の分譲マンションなどにおいては圧倒的なシェアを誇っているが、常に改良を重ねながら製品を進化させ、その機能性を高め続けている。それと同時にデザイン性にもこだわり、数々のグッドデザイン賞も受賞。環境に配慮した多くの取り組みも推進し、評価を高めている。

そんな会社にとって、特許などの知財は命綱でもある。開発した商品・技術に関する知財は必ず取得する方針で、今まで多くの知財を取得してきた。特許、意匠、実用新案、商標それぞれにかなりの数を取得。海外においても、中国や韓国で特許を取得している。

知財の知識が整理できる
ニッチトップ育成支援

公社から中国における海外販路開拓支援を受けている中で、知財センターのことを紹介され、初めてその存在を知ったという。それから関係がスタートしたが、知財センターから最初に指摘されたのは、テクノテックという社名の商標登録がなされていないということだった。製品のことに情熱を注ぎ没頭するあまりの盲点。急いで2014年1月に出願し、その後開始したニッチトップ育成支援の中で拒絶対応について協力しながら、同年8月に無事に登録することができた。改めて知財の大切さを知ることになるが、この支援について下末常務は「私たちは知財をたくさん扱っていますが、知財センターの支援では、アドバイザーからさまざまな事例に即して教えてもらえるので、とても助かりました。知財に関する知識が上手く整理できたと感じます」と語る。

また、商品開発部で知財を担当している朝賀氏は「商標も意匠も弁理士を介さずに、自分たちで先行出願の調査を行い、申請書類を作成・出願できるようになり、コストダウンにもなりました」と語った。

社会に良い影響を及ぼす
アイデアを知財でガードする

次々と新機能防水パンを開発している会社。そのことが社会に及ぼす影響も大きい。例えば、今までは壁に設置されていた給水栓を防水パン内に設置した「給水栓付き防水パン」も、その一つである。給水栓に万が一の異常があって水漏れが起きた場合、従来の壁給水栓であれば蛇口に手が届きにくい。防水パン内であれば簡単に手が届くため安心できるとともに、施工の上でも画期的なメリットがある。壁に埋め込み配管をするための二重壁の施工が不要となり、部材や工事費の削減にもつながるのだ。

防水パンでかさ上げして給水栓を付けられると、洗濯機下のスペースのお手入れもしやすくなる。しかし、そのスペースに小型のペットが潜り込んだり、幼児が手を入れてしまうケースも想定される。そこで、そんな行為を防ぐことのできる網目のようなガードも開発。これについても特許と意匠を取得し、知財として



給水栓付きかさ上げ
防水パン「フォーセットパン
TPF640」は、給水栓の開閉も
ラクラク。ガードを取り付けることでペット
の侵入も防止できる。



キャスター付きで移動・清掃が簡単にできる洗濯機置き台「イージーキャスター」。



床排水トラップ「スライドロック」。その名の通り画期的なスライド構造を採用し、ワンタッチで取り外しができる。



新開発の「水漏れセンサ」は万が一の水漏れを音でお知らせする。設置はそのまま置いても、伸縮性のベルトでパイプに巻きつけてもOK。

しっかり保護している。同社ならではの配慮や意味づけが、知財と結びつきながら社会を一步前に進めている。

ノウハウや先見の明を
明日の戦略づくりに生かす

同社が考える知財戦略について、木本社長に改めて聞いてみた。「これから企業が生き残るためには、知財で守られた商品を守る事が大切です。価格競争ばかりして、付加価値のないものは難しいと思いますね。そのためには、中小企業を支援してもらう必要があります。公社も知財センターも、東京都は支援が手厚いですから、本社が都内にあると本当に良かったと思います」。そして、さらにこう続けられた。「知財センターにはノウハウがあり、先見の明があります。ですから、知財の指導で教わったことをベースにしながら、私たちは確かな戦略を立てることが出来ます」

経営陣だけではなく、全社的にも良い影響が生まれているという。下末常務は、

「社員はこれまで知財に触れることがなかったもので、体系化して学ぶ機会もありませんでしたし、まして自分たちで書類を作成し、知財の出願ができるなんて考えもしなかったでしょう。意識の変化は大きかったですね。新しい特許出願の案件などについても、知財センターのアドバイザーにはよく相談に乗ってもらっています」と語った。

社会や環境にも配慮しながら
全体的な幸福への道を歩む

勤勉な社風で、常に努力を続けている同社は、新たなアイデアを生みだしながら、新製品の市場投入を絶え間なく行っている。その際は、事前に先行文献や知財の調査を行い、権利化を推進。それに

よって他社が模倣できないように商品を守り、オンリーワンの魅力とともに顧客に提供している。これによって、木本社長の話にもあったように、価格競争に走ることなく高い利益率を維持し、社員に還元できる。社会貢献とともに、社員の幸せのことを考えているのだ。

環境に配慮した製品づくりに取り組み、リサイクルの先駆けとなってきたのも、実は同社である。昔は防水パンにFRPという素材を使っていたが、プラスチック廃材を再生材として使えないだろうかという研究を重ねて製品化を実現。今でも再生材が多く使われている。木本社長は「人がやっていることをやっていたのでは成功しません。普通の人が考えないこと、新しいことに常に取り組む姿勢が大切ですね」と、熱く語った。

知財
センター
から

学びによって会社全体の知財意識がレベルアップ

ニッチトップ育成支援を通して、先行出願調査や知財管理台帳などの管理体制を見直し、新商品の開発方針を決める際の知財検討も行うようになりました。また、従来弁理士任せが多かった出願も知財担当者を中心に社内で事前検討するようになり、全社で知財に取り組んでいる姿勢が強く感じられる会社です。 担当：城東支援室 小高アドバイザー